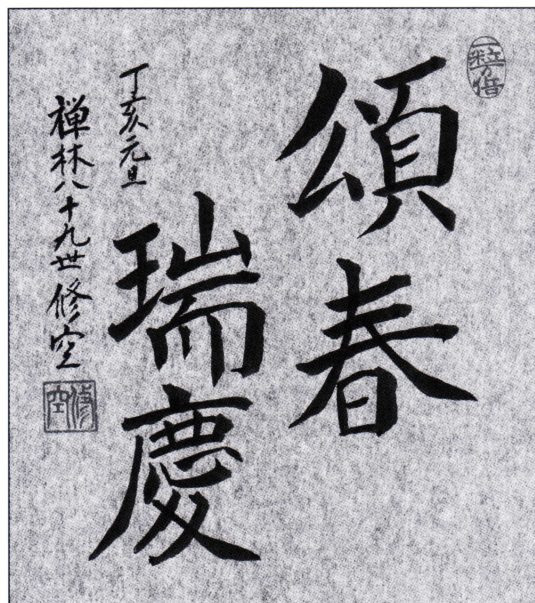


慈悲

月影のいたらぬ里はなけれども
ながむる人の心にぞすむ

法然上人



わが家の床の間に、「松樹千年翠」と
揮毫された掛け軸があります。お祝いの
時に使っています。

春夏秋冬にいろいろな植物が、私たちの
目を楽しませてくれます。その変化に心を
寄せてしまいます。その中、松の変わらない
翠は目立ちにくいのですが、変わることなく
深みある緑の輝きを保っているという意味です。

この言葉に、「不入時人意」(時の人の意に入らず)が続きます。つまり、松の翠に私の心を向けなければ、その千古変わらない翠に気付かないのです。心を向ければ気づくはず、心を向ければ、阿弥陀如来の慈悲が私に向けられていることに気づくのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、岐阜県瑞穂市在住西岡禎一様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。二月十五日に抽籤致し一名に進呈。

佛心

佛心とは、人の悲しみを
受けとめる大悲の心

佛心者
大慈悲



禅林八十九世本叟修空



「頑張れ」と、声を掛けて励ますことは、よくあることです。

しかし、心底疲れきっている人には、その言葉さえ重荷になってしまいうことがあります。「これ以上どう頑張ればいいのか」と、苦悩の淵に追いやつてしまふのです。

「お気の毒に」と、慰めることも「他人事だと思つて言うのだ」と、感じるくらいに、苦しむ人がいます。

悲しい時には、一緒に泣いてくれる人が欲しいのです。

思い悩んでいる時には、話を聴いてくれる人について欲しいのです。

慈悲とは、共に悩んでくれる佛の心なのです。

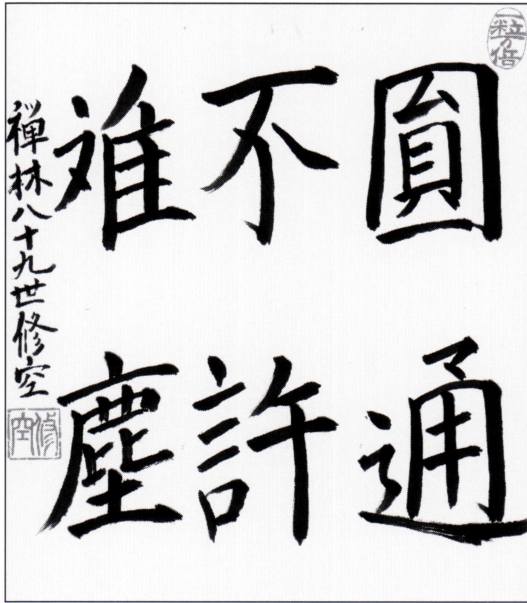
総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県朝来市在住山根左春様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。三月十五日に抽籤致し一名に進呈。

道理

生と死、幸いと災い、善と悪がある
ことを知らなければならぬ。

雑宝蔵經



家族や子どもの健康、病気などで思い
悩み、神佛に祈る気持ちを持つことがあ
ります。

結果、願いが叶わなかったとして、本
当にあなたは不幸でしょうか。

それまでの、努力や苦勞の思いは、消
し去るべきものでしょうか。

苦悩の中で、家族が互いに願ひ合ひ、
思いやる心を持ち合えたことは、何にも
代えがたい「同悲の心」を深めた証しです。
このことこそ、人としての幸せなので
す。

結果は残念であつても、人と人とのつ
ながりを育てることが出来たことは、幸
福なのです。

たとえ、願いが叶わなくても、あなた
は不幸ではありません。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市右京区在住竹村康子様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。四月十五日に抽籤致し一名に進呈。

恵眼見真

えげんけんしん
真を見つめて生きる

無量寿経



「花眼^{かがん}」とは何のことでしょう？ 答えは「老眼」。

人は年を重ねるとともに、何もかもがほんのり美しく見えはじめる眼。花の細部まではつきり見えなくても、全体がよく見えて味わえる眼。それを「花眼」というのです。

老人になって本当に花の美しさがわかる、と解釈すれば老眼もまた捨てたものではありません。ある人は、老眼鏡を「花眼鏡^{がんにょう}」と呼ぶことにしたら、眼鏡をかけるのがうれしくなったと、いいます。

花眼ゆえに美しさを楽しめるように、自分の都合でものごとを見ないで「仏さまの智慧の眼」に照らされて、常に真実を見つめる生き方が大切なのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県豊明市三浦ヤス子様にご贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。五月十五日に抽籤致し一名に進呈。

一怒一老
一笑一若



そんなことで

怒ったらかん

怒ったら

命ちぢむで

にこにこ

笑ろてなあかん

笑ろてたら

体にええで

笑ろてたら

幸せくるで

総本山 永観堂 禅林寺

忍 終 不 悔

わが行は精進して
忍びて終いに悔いざらん

『無量寿経』

不 忍
悔 終

禅林ハヤ九世修空



ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜選手が石川県立星稜高校を卒業する時、恩師である野球部の山下監督から贈られた言葉があります。それは、『おいあくま』。

お・ごるな い・ばるな あ・せるな
く・さるな ま・けるな

昨年五月の試合中に左手首を骨折。連続試合出場の記録は途切れ、選手生命さえ断たれる不安と挫折感の中で、彼を支えたのは右の言葉でした。悩むのはいつでもできる、好きな野球をもう一度、という熱い思いが彼を立ち直らせたのです。いつか「骨折してよかった」といえる日を目指して、これからの野球人生を進んでいきたい——と彼は言っています。

総本山 永観堂 禅林寺

もうご
妄語は第一の火なり
ほのお

『正法念処経』



自分にも

もちろん

他人にも

噓うそを吐ついては

いけません

吐いた噓は

たとい

小さくとも

やがて燐くすぶり

燃え

そして炎上し

これまで

築いた信用を

すべて

焼き尽くす

総本山 永観堂 禅林寺

俱く会え一い処しよ

一俱会
一処



禪林ハ十九世



「私は、お浄土で、父親と会えるで
しょうか」と泣きながら、たずねた
人がいた。
父親の顔を見たことのない人生をお
くったから、お浄土で、どうしても
会いたいのだという。
「あなたが、お浄土で会いたいと思
うお父さんのほうが、あなた以上に、
会いたいという願いが強いに違いな
い。
お浄土では、あなたのために、蓮はすの
台うてなの中央を空けて待っていてくれる
のですから」と答えた。
お浄土は、私のことを待っていてく
ださる世界。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市西京区在住塩田清美様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。九月十五日に抽籤致し一名に進呈

おしむといえども
死するは人の命なり

法然上人

諸法無我



禪林八十九世



事件、事故でご家族を亡くされた方に、どのように慰めの言葉を掛けたいのか戸惑うことがあります。ある交通事故で娘さんを亡くされたお父さんは、

「娘は、家族が憎しみを抱えて生きていくことを望んでいるだろうか」と、ある時、思ったそうです。

そして、その時から家族の話題は、事故への憎しみから、娘さんの思い出話に変わったそうです。

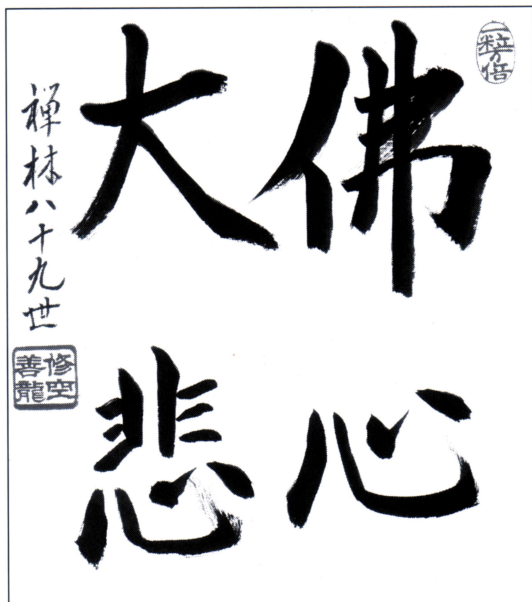
納骨を済ませた日、お父さんは、

「娘は家族の胸の中にいる」と思い、家族の絆をより強くすることを墓前に誓いました。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍院下のご染筆です。前々号の色紙は、滋賀県大津市在住大塚博史様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。十月十五日に抽籤致し一名に進呈。

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県小野市在住萩原清志様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。十一月十五日に抽籤致し一名に進呈

縁^{えん}力^{りき}

私が、生きる力を得られるには、
三つあると言います。

まず、自分の内面からの力。生きていこう、生き続けて行こうという力、私は私なのだと認める力です。

次は、家族や社会からの力。あなたのことが必要なんだ、大切なあなたなのだ、そして有形無形のいろんなメッセージも生きる力を与えます。

三つ目は、遠いところからの力。

自分とは関係ないほど遠い存在であっても、私を生かす力が、どこかでちゃんととはたっていることをよるこぶと、大きな大きな力が得られます。

これは、私を生かそうとする佛との縁ができることの喜びです。

総本山 永観堂 禅林寺

自らを燈明とせよ
法を燈明とせよ

長阿含



親

子供に頼るは

小人なり

金

地位に頼るは

虚人なり

易

威光に頼るは

愚人なり

賢き己

佛法に頼る

これぞ

大人なり

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県在住吉田真一郎様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。十二月十五日に抽籤致し一名に進呈。

夕べに結ぶ命露は
あした
朝の日に消えやすし

登山状

平 等 撮 取

禅林六十九世卒叟

修 善 龍 堂



童謡『シャボン玉』の作詞は野口雨情。雨情は、大正の終わり頃、四歳の四女を亡くし、その何年か前には、生まれたばかりの長女を失っていました。

シャボン玉きえた とばずに消えた
生まれてすぐに こわれて消えた

これは佛さまの国に帰っていった幼い命を思う祈りの歌です。「風々吹くな」と願わずにおれぬ、悲しい親心の歌なのです。

一瞬一瞬の命をいただいて生きていくことの大切さを、生きている子からも、先立っていった子からも、知らされていくことに気がきたいものです。

総本山 永観堂 禅林寺